

2006年 7月 1日

有機リン系化合物に関する一連の記事報道について

日本難燃剤協会 リン部会

2006年5月29日に日本経済新聞社より「有機リン系農薬慢性毒性の懸念」と題した記事報道がなされました。内容的には有機リン系農薬の慢性毒性や神経毒性に関するものですが、難燃剤や可塑剤に使用されているリン酸エステル類も同じ有機リン系化合物として毒性を有する様な誤解を招く表現となっています。

同様な記事は2003年10月30日付けで朝日新聞から報道され、さらには週刊誌等でも話題にされたことがあります。日本難燃剤協会（リン部会）では、度重なる報道に対し、リン酸エステル系難燃剤、可塑剤のヒト健康、環境に対する安全性情報等を収集し、ホームページ上で積極的に情報公開しています。

1. リン酸エステル系難燃剤、可塑剤の神経毒性作用について

リン酸エステル系難燃剤、可塑剤は、有機リン系農薬が示すような神経毒性作用は持ちません。農薬に用いられる「有機リン系化合物」は化学構造的に生理活性を持ち、目的とする害虫に急速に吸収され、高い毒性を発揮するように作られています。

一方で、難燃剤、可塑剤に使用されているリン酸エステルは、化学構造的に有機リン系農薬と同様の生理活性は持ちません。詳細につきましては、日本難燃剤協会ホームページ（リン系難燃剤の相対的毒性の概要）をご参照ください。

2. 室内環境によるリン酸エステル系難燃剤、可塑剤のヒト健康リスクアセスメントの取り組み

日本経済新聞社の記事中には、東京都健康安全研究センターが「室内空気から各種リン酸エステルが検出された」と掲載されています。日本難燃剤協会では、東京都健康安全研究センターのデータを元にリスク評価作業を行い、日本難燃剤協会ホームページに掲載しています。その結果からは、リン酸エステル系難燃剤、可塑剤のヒト健康リスクは低いと考えています。

3. ヒト健康リスク削減に関する対応

現在までに得られている情報からは、リン酸エステル系難燃剤、可塑剤の安全性は高いと考えられます。しかしながら、最近では化学物質過敏症や子供への影響が議論されており、当協会としても関係省庁やユーザー業界と連携を取りながら、リン酸エステル系難燃剤、可塑剤のヒト健康リスクを削減させる取り組みを積極的に行っています。

・日本難燃剤協会の具体的な取り組み

1. 文献情報収集
 2. 放散データの取得
 3. 放散懸念の少ないオリゴマータイプの展開
 4. P e f r c（世界的なリン酸エステル系難燃剤の業界団体）との連携
- その他

『 新聞報道でよく見受けられる「懸念」「疑い」という表現では無く、化学物質のヒト健康影響は、科学的見地に立ったリスクアセスメントの対応が重要と考えています。

当協会は、リン酸エステル系難燃剤、可塑剤のヒト健康影響について科学的見地に立ち、リスクアセスメントに基づいた対応を進めていきます。得られた情報は今後も、ホームページ等で公開します。 』

以 上